

「東郷学園義務教育学校の山田地区俵踊り伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立東郷学園義務教育学校

2 学年・人数

5年生～7年生 計28人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年9月～10月 ふるさと・コミュニケーション科(本校交流スペース)
令和5年11月1日(水) 学園祭りハーサル(本校体育館)

(2) 発表の日時・場所

令和5年11月2日(木) 東郷学園義務教育学校学園祭(本校体育館)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

俵踊り(たわらおどり)

(2) 由来

五穀豊穰を祈願する踊りとして昭和初期のころから始まり踊り継がれている。戦後まもなく若い後継者に踊り継がれるようになった。昭和34年に地元で踊られたのが最後となっていたが、平成10年に地域の方々の記憶をたどりながら復活し、稽古に励んでいる。

(3) 構成等

楽が鳴り出すと、踊り子が俵を担いで入場し、途中で山型に積み上げる。踊り子の一人が俵を取って先頭の踊り子に渡す。豊年の喜びと苦労などを盛り込んだ変化の激しい踊りである。扮装は、緋の着物に赤色のお腰をのぞかせる。頭にはソロバンタオルを姉さんかぶりにし、歌に合わせて踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

以前は、旧山田小学校の運動会などで子どもたちによる公演をしていた時期もあったが、児童数の減少や各保存会の取組事情により、困難となった。現在は、保存会加入や子供たちによる練習・取組はできていない(男性のみ、あるいは女性のみでの踊りのため)。各自治会・保存会においては、神社の祭典、馬頭観音祭、集落親睦会、集落精霊流し、その他依頼に応じて公演している。子どもたちもこれらの機会を通して地域の郷土芸能に触れている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

5～7年生のふるさと・コミュニケーション科の学習において、「山田地区の伝統芸能」コースを設定して伝承活動の取組についても学習している。過去、学習発表会や5～7ステージ交流学习で発表した。

児童生徒に、東郷地域の一員としての自覚や地域を誇りに思い、大切にしていこうという心情を育むためにこれらの学習は続けていきたい。

7 取組の様子（練習状況，発表の場等）



【山田コミュニティ協議会での練習風景】



【学園祭での発表】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童生徒】

俵踊りはとても昔からあってとても驚いた。米の豊作を祈って踊るというのを初めて知りました。意味を知ることができて勉強になりました。また、昔からの引き継ぎで、今でもこんなに多くの人に知られていること自体がすごいことだなと思いました。

【教職員】

今年度も山田地区に継承されてきた伝統芸能に関わることができた。子供たちにとっては毎年初めての体験であるので、代々伝統を伝えていくことができています。他地区の伝統芸能を知ることによって子供たちも視野を広げて地域をみていくことができると期待している。

【保護者から】

とても素晴らしい発表でした。東郷学園ならでの学園祭だと感じています。来年も楽しみです。

【地域・保存会の方から】

子供たちが真剣に学ぼうとする姿勢がとてもよかった。教える側も嬉しく思う。子供たちが発表することで山田地区の伝統芸能が旧東郷町に広がっていくので、いい取組だと感じている。来年も頑張っていきたい。